

事務事業マネジメントシート(平成29年度実績と平成30年度計画)

平成30年 9月 6日 更新

事務事業名		コミュニティ指導員配置事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	3	教育の健康			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	栗木 清智
	施策	10	生涯学習の推進			所属課	生涯学習課	担当者名	森田由貴恵
	施策の柱	37	学習の啓発と参加機会の提供			所属班	生涯学習班	(内線)	1513
予算科目		会計一般	款10	項5	目1	事業連番10764	根拠法令	合志市民センター条例 成果優先度評価結果 : ⑥ コスト削減優先度評価結果 : ⑤	
終了、開始年度		☒ 29年度で終了 ☐ 29年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	施設利用者が各市民センター（御代志・黒石・須屋・泉ヶ丘）及び野々島公民館を快適に利用できるように維持管理を行う。 施設の多くは、経年劣化が進んでいる。ついでに、中長期計画に基づき改修を行う必要がある。 また、黒石市民センター、野々島公民館においては築40年を経過し、建物全体の腐食が激しく耐震対策も必要であるため、計画に基づき建替えを検討していく。 更には、維持管理・運営について指定管理制度等も検討していく。 平成28年度は熊本地震被害のため、御代志市民センター講堂の天井の修繕をおこなった 平成28年11月～野々島公民館解体（野々島防災センター建築のため） 平成29年3月 野々島市民センター完成 平成31年10月予定の、消費税増税に向け、市内社会教育施設と併せ施設使用料の増額を検討予定 平成31年度には黒石市民センターを建設予定
【業務の流れ】	①消耗品補給、蛍光灯・電灯交換、ホワイトボードマーカー等消耗品補充 ②保守管理（コピー機、自家発電、消防用設備、貯水槽、空調、券売機、清掃業務等） ③施設の修繕・工事 ④避難所用品の備蓄 ⑤管理人の配置
【主な予算費目】	報酬、需用費（消耗品費、光熱水費、修繕費、施設修繕費）、役務費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費、備品購入費
【意見や要望】	市民が快適に利用できるよう、老朽化施設については早急な改修及び建替えが求められている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 29年度実績(29年度に行った主な活動) (DO) 空調機械保守点検業務委託、清掃管理業務委託、施設予約端末保守業務委託、券売機保守業務委託、自家発電設備保守点検委託、電気工作物保守点検業務委託、建築設備定期検査業務委託、特殊建築物検査業務委託、昇降機保守点検業務、自動ドア保守点検業務委託、貯水槽保守点検業務委託、機械警備業務委託、来客用マットリス、シュレッダーリース、券売機リース、消防用設備修繕、照明改修工事、ホビーセンターガス耐震遮断装置取付工事、御代志市民センター水道メーター改修工事、御代志市民センター非常用発電機更新工事		30年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 空調機械保守点検業務委託、清掃管理業務委託、施設予約端末保守業務委託、自家発電設備保守点検委託、電気工作物保守点検業務委託、建築設備定期検査業務委託、自動ドア保守点検業務委託、貯水槽保守点検業務委託、機械警備業務委託、昇降機保守点検業務委託、来客用マットリス、シュレッダーリース、券売機リース、各施設修繕、
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア:指導助言のための勤務日数	日	野々島市民センター完成のため、管理員報酬、各種保守業務委託、光熱水費の増。工事請負費の減。
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
→市民、市外からの通勤・通学者	人	→ア:コミュニティ構成区域人口
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
→生涯にわたって目標・目的を持って学習を行なっている	%	→ア:目標・目的を持って、実際に生涯学習を行なっている人の割合(市民アンケート)
*③成果指標設定の理由と30年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
施設管理上の不具合が少なければ、それだけ環境が整備された施設を提供できたことになるから		0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	27年度 実績(決算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	29年度 実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	アイ	日	780	924	900	897				
② 対象指標	アイ	人	33,995	34,482	35,000	35,224				
③ 成果指標	アイ	%	35.1	30.6	35	27.2				
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	5,155	5,171	6,325	5,198			
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	5,155	5,171	6,325	5,198			
		(A)のうち指定経費	千円	5,130	0	0	0			
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0			
	人件 費	正規職員従事人数	人	1	2	1	4			
		延べ業務時間	時間	350	71	0	250			
		(B)人件費計	千円	1,299	0	0	989			
トータルコスト(A)+(B)		千円	6,454	5,171	6,325	6,187				

事務事業名	コミュニティ指導員配置事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	---------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は29年度的事後評価、ただし複数年度事業は29年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①29年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 施設の劣化により故障が頻発している。空調の故障が相次いだ。最低限の修繕を実施することはできた。
	②30年度目標達成見込み	☐ 目標達成見込みあり⇒【理由】 経年劣化により躯体・設備が古くなり施設上の不測のトラブルが起きやすい状態のため
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 新築した野々島市民センターを除き、建物全体の劣化が激しく修繕が追い付かない状況である。大規模改修が必要である。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似施設は他にもあるため、一括した管理を行うことができる。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 物件費の内訳は、施設管理委託料や各公共料金、修繕費であり、光熱水費に関しても必要最小限の計上をしているので、これ以上の削減は難しいと思われる。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 夜間、土日・祝日は管理人を配置して必要最小限の管理を行っており、その報酬を低く抑えているため、削減は難しい。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 施設利用料及び冷暖房使用料は、施設のランニングコストに対し非常に安価なため、受益者負担の観点からも早急に検証作業を進める。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 指定管理者制度導入も視野に管理運営を見直す余地はある。

3 評価結果の総括（CHECK）

前年度残修理のため、早々に予算が枯渇し増額補正を行ったがそれでも最低限の修繕しかできなかった。施設の経年による躯体の劣化、熊本地震の影響による大小の故障が頻発しているため、大規模修繕の必要性がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☒事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							